



夢やったらえいにな、こら、ビッコになるな」なんてホーッと考えていました。「ビッコになるのは仕方ないけど、クラッチが踏めるならまた乗るぞ」と、何かカッコつけてるようですが本当にそう思いました。それから4カ月間の長い入院生活が始まります。1カ月半ほど、寝返りもできないまま、ヘッドで上を向いたまま寝たきり。車椅子に乗れるようになった頃には、もう外は秋も中頃でした。そして冬になり松葉杖で歩けるようになると、練習日には病院を抜け出し、なんとかクルマを運転し鈴鹿まで練習を見に行くようになりました。「俺も走りたいなあ」なんて思いながらひとりでホーッと見ていたのを思い出します。思えば、あのときの悔しさがあったからこそ、今でも続けていられるのかも知れません。こんな感じで気が付くといつの間にか「俺にはレースしかない」と思い込むようになっていたのです。そして、マシンのほうは生命保険とローンでなんとか直し、去年の3月から再び始めました。しかし、今度は恐怖心との闘いで精神的なダメージは思ったよりひどく、もうボロボロ。身体は力チ

ガチ、膝はカクガク。クルマから降りると恐怖で吐き気を催す始末。乗り始めに出たタイムを出すのに3カ月近くもかかってしまいました。おまけにマシンは新車で買ったのですが買うタイミングが悪かったようで、再び乗り始めた頃には各コンストラクターからそれぞれニューマシンが出され、すでに旧型。まさに踏んだり蹴ったり。「天は我を見放した」という感じでした。そんなわけのいろいろと悩みましたが、7月にまた入院して、膝から腰まで骨の中に入れていたパイプを抜くと、不思議なもので恐怖心というものをあまり感じなくなったのです。「ふっ切れた」とてもいうのでしょいか？ それからはタイムも順調に伸び、今日に至っています。今年は一戦目からまずまずの結果を残せ、4月からなんとニューマシンにも乗れるようになりました。この先、どこまで行けるかわかりません。しかし、今年と来年、この2年が勝負だと思っています。そして、もし2年たつて上へ行けなかったら、そのときは潔く辞めるつもりです。借金にも限界がありますし、もうそれ以上はとてもしゃないが続きません。

だからこそ、この2年間にすべてを賭けたいんです。やらなかつたら、年を取ってから後悔するのは見えてる。とことんやってダメだったらあきらめもつきませす。ブスブスと不完全燃焼するんじゃなく、真っ白な灰になるまで燃え尽きるつもりです。何か「あしたのシヨ」みたいなになりましたが、そうです。僕は矢吹丈になりたいと思います。そして、もし辞めるときがきたとしても、怖いとか苦しいとか、あるいは技術的な限界を感じて辞めるのだけはイヤです。そのときはその年のチャンピオンと対等の速さを身に着けて、それなりの成績を残し、「自分には才能はあったが金と運がなかったから仕方がない」という形の辞め方をしたいと思います。ドライバーにとつて、速いのは最低条件。それよりも金と運が大きなファクターを占めるのがこの世界ですから、僕にはF3を自己負担できるような3000万円のお金はもちろんありま

# F1600チャンピオンレース ゼッケン62番 『今に見ている420』by永井 でF3をめざす

せん。すべてのF1ドライバーがきつとそうでしょう。こう考えると、ほとんど不可能なことに賭けているのかもしれないが、ある人から聞いた言葉のなかに「真剣な挑戦は不可能を可能にする」という言葉があります。僕はこの言葉を信じようと思います。そしてまた、何か光るモノがあれば見ていてくれる人は必ずいる、と信じています。人生は一度しかありません。だからどうしてもやりたいことを結果が出るまでやりたいんです。頑張りますので見ていてください。

## 今年の成績

- デビューレース、鈴鹿シルバークップ第1戦 予選4位、決勝3位(2月15日)
- 西日本フレッシュユマンFJ1600A・予選1位 決勝8位(3月1日)
- 鈴鹿シルバークップ第2戦 予選7位、決勝8位(3月15日)
- 鈴鹿シルバークップ第4戦 予選4位、決勝クラッシュ(5月3日)
- 西日本F3000オールスターレース FJ1600A 予選8位、決勝3位(5月10日)
- 鈴鹿フォーミュラジャパンF3000レース、FJ1600A 予選9位、決勝2位(5月24日)

